曽我祭
貴重書
文政甲申新版

40.8.26
ア306531

曽我祭

文政七年

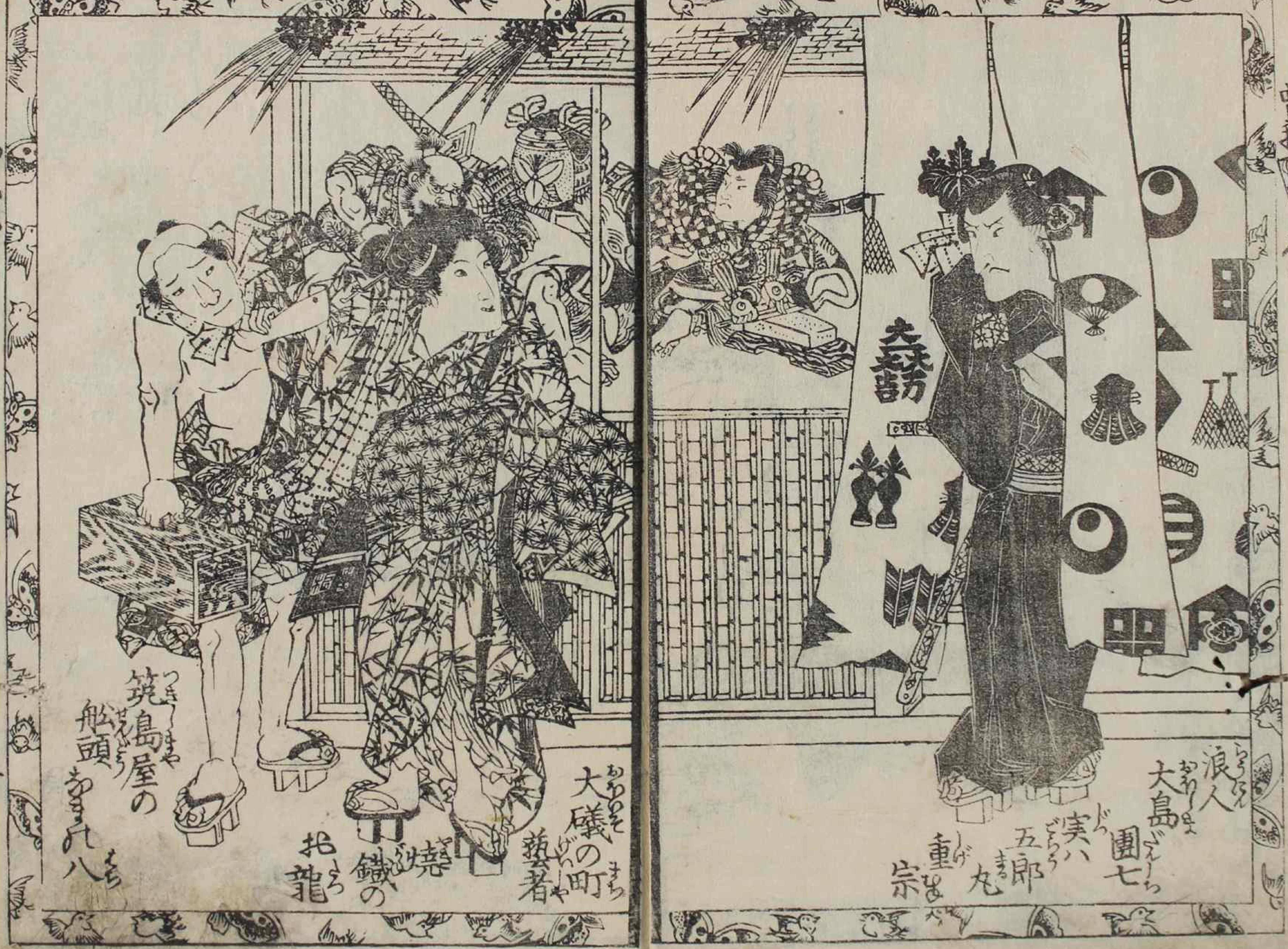
曽我祭東鑑

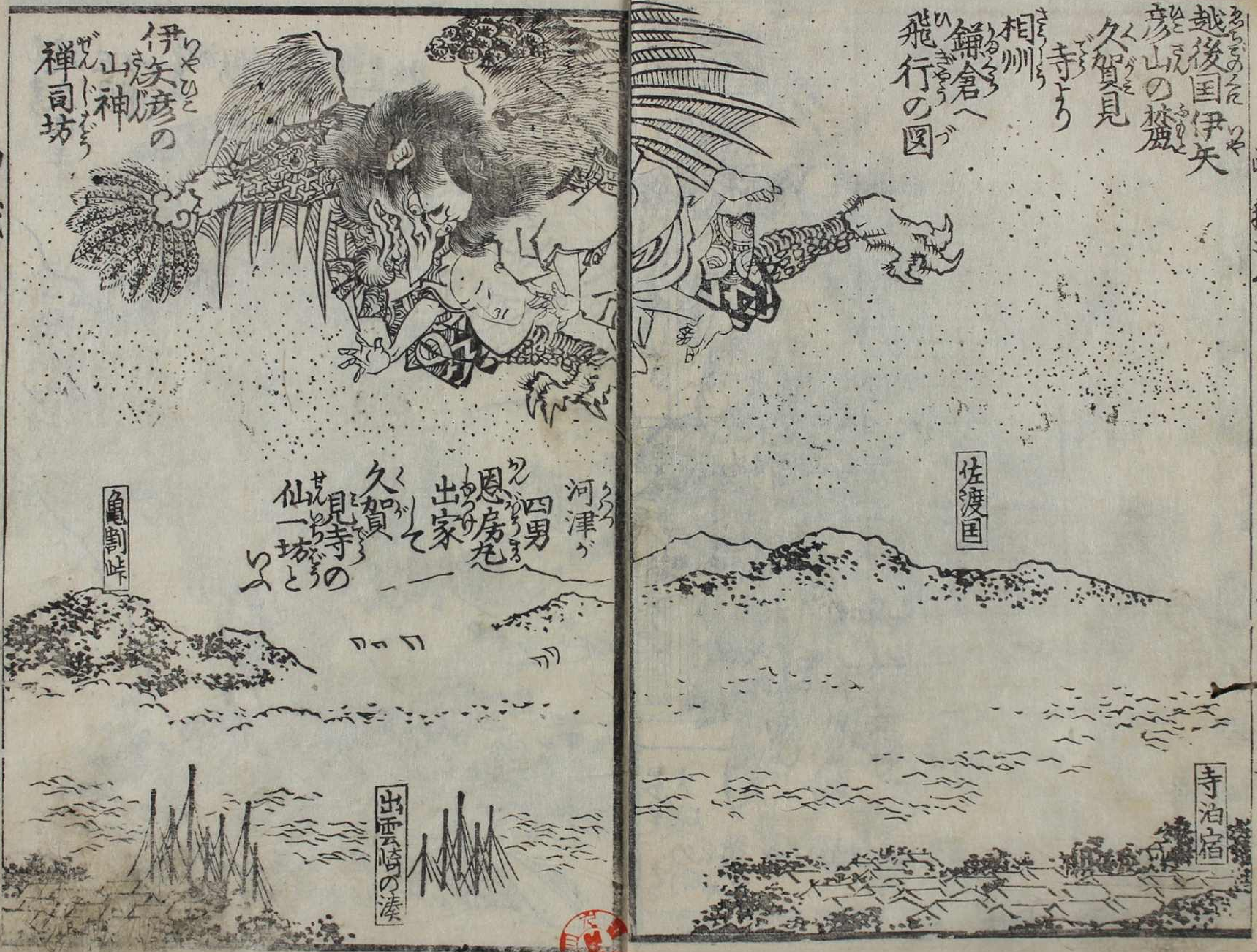
南北門亀東作
國貞画
丸文

抑駿州冨士郡松風の庄厚原に住居在し連枝乃御神の縁起ハ則ち年々歳々歌舞妓の妻え狂言綺語絶ず栄ふる物語ハ建久乃後日紙継て

一冨士似白三座乃名人揃ひてのせし新作の絵冊子はめしよめ此纔の稚編ふ頼ひ奉ると敬白

侠客三人之豪傑集會之図
鬱止
志意
障子乎
擧與
可啼
和津
男達
荒五郎茂兵衛
男達
天竺徳兵衛
実ハ河津が四男
恩房丸
男達
朝夷奈藤兵衛


浪人大島團七
実ハ五郎丸重宗
大礒の町藝者
焼鐵のお龍
筑島屋の船頭


越後国伊矢彦山の麓久賀見寺より相州鎌倉へ飛行の図
伊矢彦の山神禅司坊
河津が四男恩房丸出家して久賀見寺の仙一坊といふ
佐渡国
亀割峠
出雲崎の湊
寺泊宿

建久四年五月下旬
源頼朝
冨士野牧狩之図

大磯とら　御台政子　文寿堂　[illegible]　鬼王新左衛門　化粧坂少将

和田義盛　北條時政　秩父重忠　梶原景時

浅利与市　仁田忠常　岩永左衛門　江間義時

千葉[illegible]　根井[illegible]　若[illegible]　稲毛重成

梶原景連　金子十郎　小林朝比奈　三浦義時　[illegible]太郎

建久四年五月廿八日夜曽我兄弟祐成と時致狩場に忍び父河津が仇祐経を討て年来の本望を逹する図

曾我祭東鑑 合巻 六冊
荒五郎猛の荒者清が 男を輝く狂女の 矢根石
天草輝 紅の縁が 山形の雪崩にかゝる 伊東貝
雪の浮名を筆が あんま川の森に 姫鏡
建久四年後日の曾我

大一大万大吉 中むら 巴丈
東都土産自菊遊覧 近日出来

一 昨日の誓盟縁起 鶯の利益
浅草梅の屋頭巾 近刻出来

名古屋 不破
東山伽草帋 近刻出版

佐々木 月本
敵討巌流嶌 閑板翻出

浄瑠璃仕組 道行駒の別
大磯のとら 化粧坂少将 鬼王新左衛門 同 団三郎 桐竹とあ 十く

見立役人

一 大江広元 坂東三津五郎
一 畠山の二九重宗 後に大磯国七郎 松本幸四郎
一 曾我の十郎祐信 荻野伊三郎
一 海江田ぜん 市川門三郎
一 仁田四郎忠経 市川雷蔵
一 梶原平三景時 大谷広右衛門
一 近江の小藤太成家 坂東三津右衛門
一 千葉之助常胤 市川綾三郎
一 源の頼朝公 尾上多見蔵
一 八幡三郎行氏 尾上新七郎
一 畠山の女房 大谷門蔵
一 同 重忠三ノ大 関三十郎
一 けいせい虎の妹 後に工藤左衛門祐貞 坂東彦三郎
一 大磯の妹 後に工藤の尾張貞 岩井紫若
一 曾我の五郎時致 一法 中村まつ江
一 久上ちゝの仙 後に男達天上徳之 中村伝九郎
一 尾上菊五郎

替名次第

一 男達鍋浮世五郎 坂東三津五郎
一 女房おかぢ 瀬川菊之丞
一 奥女中桜木 後に京女郎あやめ 市川門之助
一 男達けんまくの三吉 市川男女蔵
一 ぬさや孫右衛門 沢村源五郎
一 同 姫お仲 岩井粂三郎
一 同 千代 伝八 浅尾友蔵
一 小ぬかの浪 中村源之助
一 鍋浮屋手代 次兵衛八 坂東善次
一 若党 喜六 岩井喜之助
一 二ツ井 おかの 松本よね蔵
一 巳之吉 与七 大谷紫緑
一 おかめ 橋 松本小治郎
一 なまの八 勢川嘉六
一 大谷佐野右衛門 大谷鬼十
一 鍋屋 嵐岩十郎
一 町がゝ 岩井半四郎
一 男達若 市川団十郎

鬼王

おもはくゑん

むかし〱あふみの国いぶきの山にせんじ坊といへるあり此山神にいのりてゑんせんをこひ山中にて日数をへるところ仙一坊ある時ぜんじ坊にむかへられめぐりあひしが山海万里一ト飛にくろがねの鳥にするがの国の

かうんのきめがたあれどもうち楽げんぜんときりむすぶ霊鳥の羽たち一社の神とあがむ

ふじ山のふもとににげのびさきに仙一坊かねひでのたち「うんざうのふさきのあと川津がおやとさうとのべどもいとけなき山に近にそだちより山あるに今若殿武のあきらにて兄弟ののぞみも今日こそひさやすくうつてわんらのねんからをころせうそのたいこそ八わどちつきふじの根ぐるのかりむかうよりとりをけの武士兄弟をうちとらんとひしめけどもあのうちをあまくすまつせたいうすだん切といひつゝゑんかる

ちゝぎみのかたきとうつたるかたきありと見るや一トうちに坊しやのねがひにかなひのひうらみがわしがひおきつみ人がらみをつめる仙一きゝの書もうん身八行きみなさる人をまあます〱さんあいでおやのかたきとありけれ山神さまねてこそ一すうちらもちこのほりやひさふの山神ぜん下坊とかみさまとうえんぢよれにいのるとせうあるにより

つゞきへ

「つゞき」近江小藤太[illegible]ござ
るひさうそもく
すけちかぐんは
ちゝぶ丸と
いへるつるぎ
あり今
まさしく
工藤の手に
わたりそれより
其分をうちえんかや
今さかゞる家のひめん
をそうひしど
かめの下ひらけ
おとろへさせ
おめちかぎの
ゐぎをさるきんきゝ八
めぐせんまろ
このさかわろ
[illegible]
[illegible]
まちそあるけ
三ぞくの
[illegible]

さびきりけり
仙六[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]伊東のあぶみ[illegible]よりさもせ
うちさらん[illegible]又[illegible]
けの[illegible]ひのりん[illegible]それ
こそ[illegible]今さらけあらん
仙一ちくト[illegible]
せんじ坊ひりんの
[illegible]これに
[illegible]文にいかく
「さんめくそろび
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]山
[illegible]
[illegible]
[illegible]
あらかれいぞ[illegible]

せんじ坊
うけつぐ[illegible]
ゑと仙六
[illegible]
[illegible]
[illegible]
さうて
[illegible]
せんじ
坊八
[illegible]の
[illegible]
さうて
どび
[illegible]
けり
○さそその
ころ八建久
四年五月
廿八日の
[illegible]
けるが

そが[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]万人に
[illegible]
山[illegible]すけ
[illegible]
仁田の
[illegible]
[illegible]
さうて
[illegible]の
時宗
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
ていけ
ぞりける
[illegible]
[illegible]
[illegible]

◎下より 此弥人にろーもされわかくはして
おわうこうおつとめくてート ねがひけるにぞ
三のまへえ

つゞき二
仁田忠ハつく
めんしやうのかゝり
又みつ丸ハゆうし
さる時宝頼
そげざりしと
いへども吉んぜう
のしやうぶにおよ
ずうちすさみを
身にまとひうち
ざきてまる時おを
女すゞこにいへりて
さらにハふーのかんにれ
ゆるずとのはさこそ
おもかや別当とを色
ゐかりけるみつ丸あん
にそうのしてめんぶく
をしるひろきゐて
ねがひやけるみせう
しやるめ〳〵ござれう
びやうへんの
のぞきを一るに
とおきこの ◎上へ

東鑑

申のとし

曽我祭東鑑 中巻

鶴屋南北口授

五渡亭国貞画

文壽堂版

つゞき さても又さび しんぞくの[illegible]ハ わらひ[illegible]と [illegible] られ[illegible] [illegible] きまりて[illegible] そくにそう [illegible] [illegible]を目に [illegible] [illegible] [illegible]

▲ふんじつゆくせんぎの[illegible] かたし弥市とうり[illegible] 人とおう[illegible] きゝて[illegible] おすがおか仲は[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] おか仲を[illegible] [illegible] 伴八

今ハさびのひとびとの[illegible] ごぞん風[illegible] でのりのぞうぐ[illegible] つまで[illegible] つか[illegible] あくる[illegible] おか[illegible] 今さん[illegible]

○[illegible]代伴八 [illegible]の 代きん 百文を [illegible] [illegible]

[illegible] きげの しやの [illegible] これ[illegible] いのりける [illegible]

▲ [illegible]

おそう[illegible] お仲に[illegible] [illegible] [illegible] 弥 八[illegible]

[illegible] じん[illegible] [illegible] [illegible]

鬼

天

つぎに
天

○彦 太郎丸
仙いち
「その年月日の

つゞき ひきがへるすがたのきへの
ゆくゑのびいりゆくゑのくらく
うらぶかきあはれ 私王丸の
かのうんよが
めでたや
しきりの
とそへり
るぞでゆくトいふかどもに
うらうらうどにさらがくるトと

鶴屋南北門 亀東作
五渡亭國貞画

つゞき かくてまんこがせき ゆるくせまく
いりきそ八くのまうこころの
人ぐあまたのにんじゆゆく
おうきりうしあバ仙のちからハ
そをせんどくえてうけざもつたに
ませのにてりとおもはれけけ
ぞうよきそうろりける
されバはるの大ぞう
丸よりうちもむかし
うらくそうける
いうぞやらくすけ
つねをうちくるに
そこがはまかずすべのおうくて
わんがうち丸とのみかの其のみや出多家臣ろぞう
はくぞびつるが守き是のびいりしまさいうたとも
こうちえんがくに臣あかれあのりのをいねかうに
や一るへんバ父をうつくる時むかゞうのせ一
移あのいうにつくりしうがう丸のつるぎゆせせつ一や
てがうらせのかのいくてに臣とさいもんの種がひろれバ
ひ相をよりをも只へでんじやうに臣けりの手すけあまて
とそきうへ一て中へんをさ一てき手んもそうりうぐ
べきいむゆて太がう丸にあかりしうべさうぞくゆるぎ
あさぶくへろこねあくむ一ろけいぞの大将へせんぞきそう
八ごうの一大がうろうかが丸をひつさげて
くひちうんとさちうるとろに
いわおうがつるぎをうちひろる
ハテそがくびをあら
ちずうちかとに
がう丸にゆとつ
あうそうきくハ
まきうちぐ
ておけ
うせける
さても
まさ
あの日
お友へあ次さんの
きやくよう
きうのおつひ
りがげの一や

〔つゞき〕せんどうこそもすに
あいずのあいせくるきぶつ
の義実せんどうがいたに
ろをおしきりおくろを
のせてこぎゆく川すぢ
石上川のうすかるひの口
あげてあらわれ出る仙のうち
がうハ仏のりんをさらえ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
きせてこぎすぐるうけられ近
と仏いちがうりんを[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆも百両とつか合ぐるけさべころに
本うせんと
[illegible]
さの
[illegible]
ぬうのか[illegible]
[illegible]
いけんのてるぞ

つゞき これらすらも いぜんハ三郎ひ助松 今ハ人とひしめの きまゝ侍どのざん生 のうち お仲との いひ かく そく その ざう

ちうにんして 左右やせちおいうけ むかれバかうろを□ひ いその盃どのゆらう にんとのろ□その うち□やさんの 方へ古加の こうろへ□これら との□のが 百両の□ に□の□

〽わく丸 さてろハ此のその恩がやきけ すぐに□中□て□わけん□くよろ ことかやト□ちわがるわうつゝる 侍八がイヤその□ハ大こなめが おきゝね□□の人女る工八□の すけね「ゐくそのさうがまあハ せろーやがおのひやくいよく それに□さうねおけれバ さらうろけひしのの□さん トいわれて侍八ひがつみし 「さの□やわるさが□すれども せすまいう□にもせよ此ものゝ□よそのさうがうけ あがてゝ□をてまゝうわのうろうそふわらろうれバ おのその代今ハざんなくさてそー「おれ侍八イヤさとる えぞくうわぶくそうがうとて□百両ハすつ□□□□くた それにもらせて□□ハ□ちうろ□のまつりませすものうき やさんハむをとのがさきんのわやひうむれど むすわがあうざにやゝてまゝうせろまでそのろ□□ の□すあれふざのうけぶ□□くれ□せろうすがるハそのむとのぞく

おろそや 同ざ□ あれバ さう□に むそのく あんざ□□ うく その ぶろ おうさじやてお仲 をもかくそくのぶく よあう□ぐーきお うひおのおト強たろ がそぞだにさこハ ころとぞそ「まろ らバのにつ□ 百両の ハおる きまゝ わも 巳

墨けニ さのめまト ふわろる をうのあれ 門ゟかくる おろおぞ 図

太直

つゞき

「つゞき」歳三ハとあつけ「コレく〜このゝゆうるずさぶぐてとられ
あけれバちうぬあさこの台歳三「イヤあのとのさんが手さむら
いにこのすれてありわりよきさけあさるな
いちやうぢんぞへいかと
とひこのさるぐるあさ
まをかきうぎに
させるつりのは
志すまう「ヲくぢんゆも
いゝずとんやハ
のどてあすまと
まつてけぞてひき
「でありあ花ハおのぞくの
たゝづわで「あひて六ハのぞをと
あさこひ台歳三へ「あうあう
歳三ハつ法のをとふあさこひか
宝むね「ハテめづらしいこそひきを
あへ「あさこあひませう」ト
こうれてこそへまうる
ひらくてあさこひみあうみか女くそのごく
なあがくへでおゝもうてこのすれし
ものとまち女るまいとこぶひにつのるそのの
おやおさりの氣をつまつてうひにおめ田

田 そりうちに
あんじて
おとくより
きうりが
女ぞうけそのきみて
ころでへりなあても
さすまぬけつきのまへ
たしのうきとの ☒

☒ うまゆのどまそう
仙へらおらふうやさ
ちうてけんぞくあるる
そうりをコとけてかく
とる「やらとあうえ八
「ごぞんじのそがぶ
あつぞとえてもてに
えびがうす
け六日よ
りも天一
天上のあう
おいりて天ユ
とくまへをも
「つけさ名の
わを二寸
きんとあふ
たうるを
京障て

東鑑
下
鶴屋南
北口授
亀東作
歌川
國貞画
申新版
丸文梓

「上のまきより」これからう曽我どうぜんにトいられて二ノ宮へ「さてハこうしてきてむかへごせんのちがゆうねへのあのさうろうがおもしろいところをゆゑにをそく萬事もさがちあがうてあゝらあ今からきたるを曽我どうぜん「よくころちもそんならそのこころざしのの女なのうふていとも「あゝよいわりきて井ようあそ「そうとのきげんをはしやうから「これといゝふもてくまさんのいろのあせこ「あんのまねにおよびねるよ「これからいてハ曽我ぶんさそものゝきうぞ「つぎへ」

○曽我別あつまり の上そが ところの 中村さ 三宮村の のうち人 おさへ ろうの もん あさ 上下 さ郎のき つとめるよ まるの り手がうちん

○あらた人神のまつり毎年五月廿七日廿八日あすの日そうりおとあるる四月上旬そぶの小田植とそそろひの中で手をもてうつくしくふとぞ

申のとし

曽我祭東かゞみ

鶴や南北按

哥川国貞画

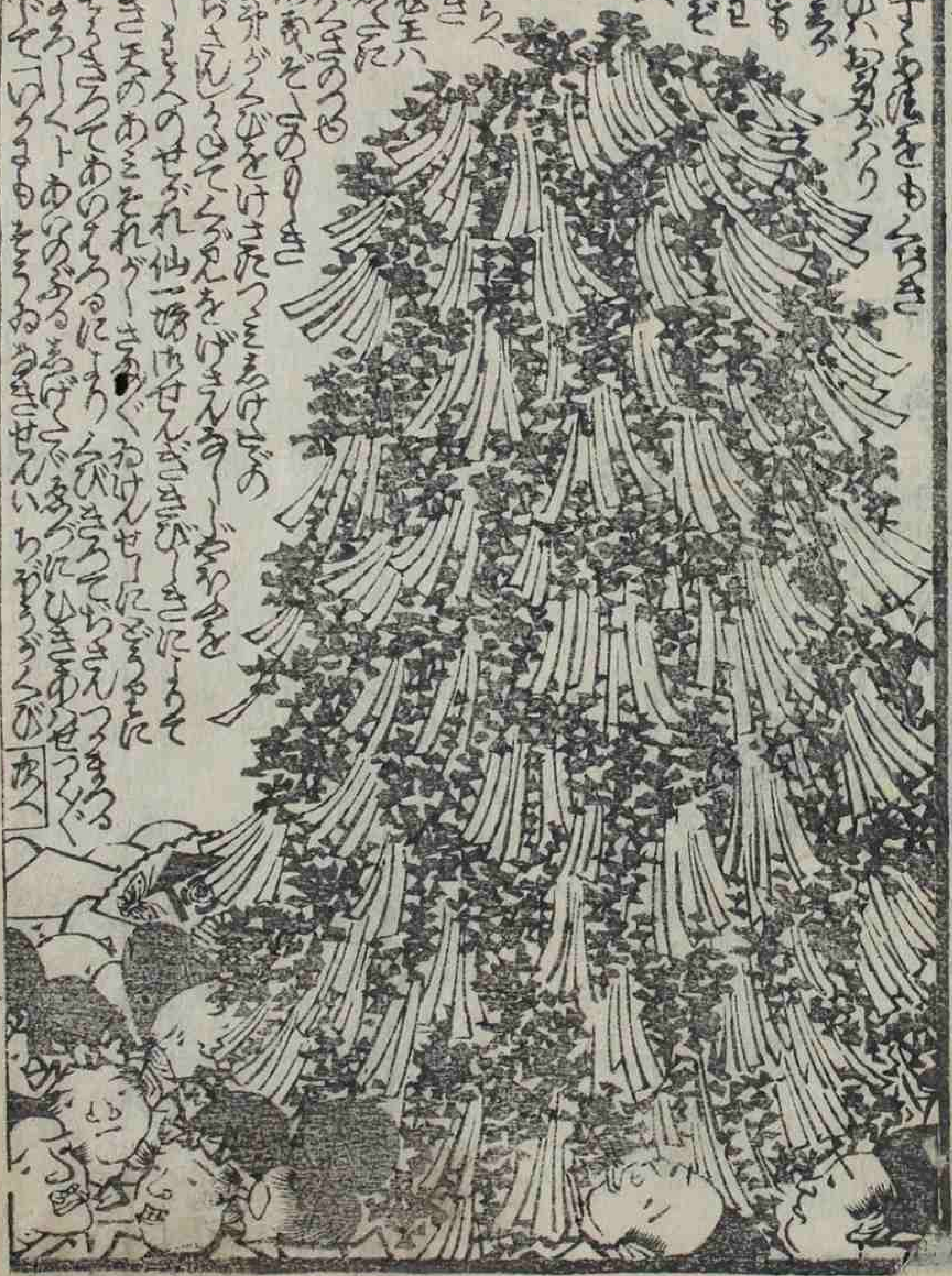
丸文梓

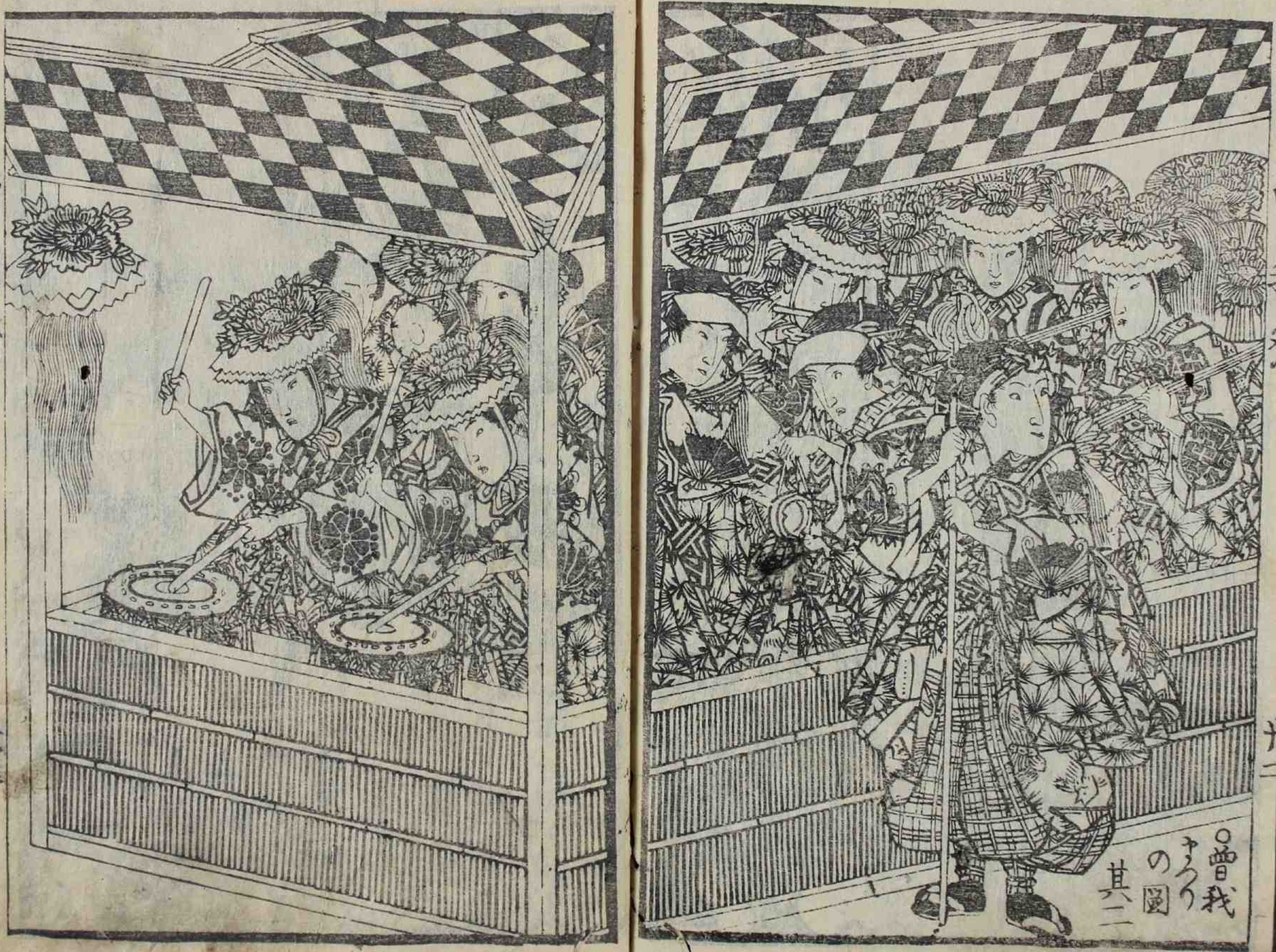
下巻

曽我祭禮之圖第一

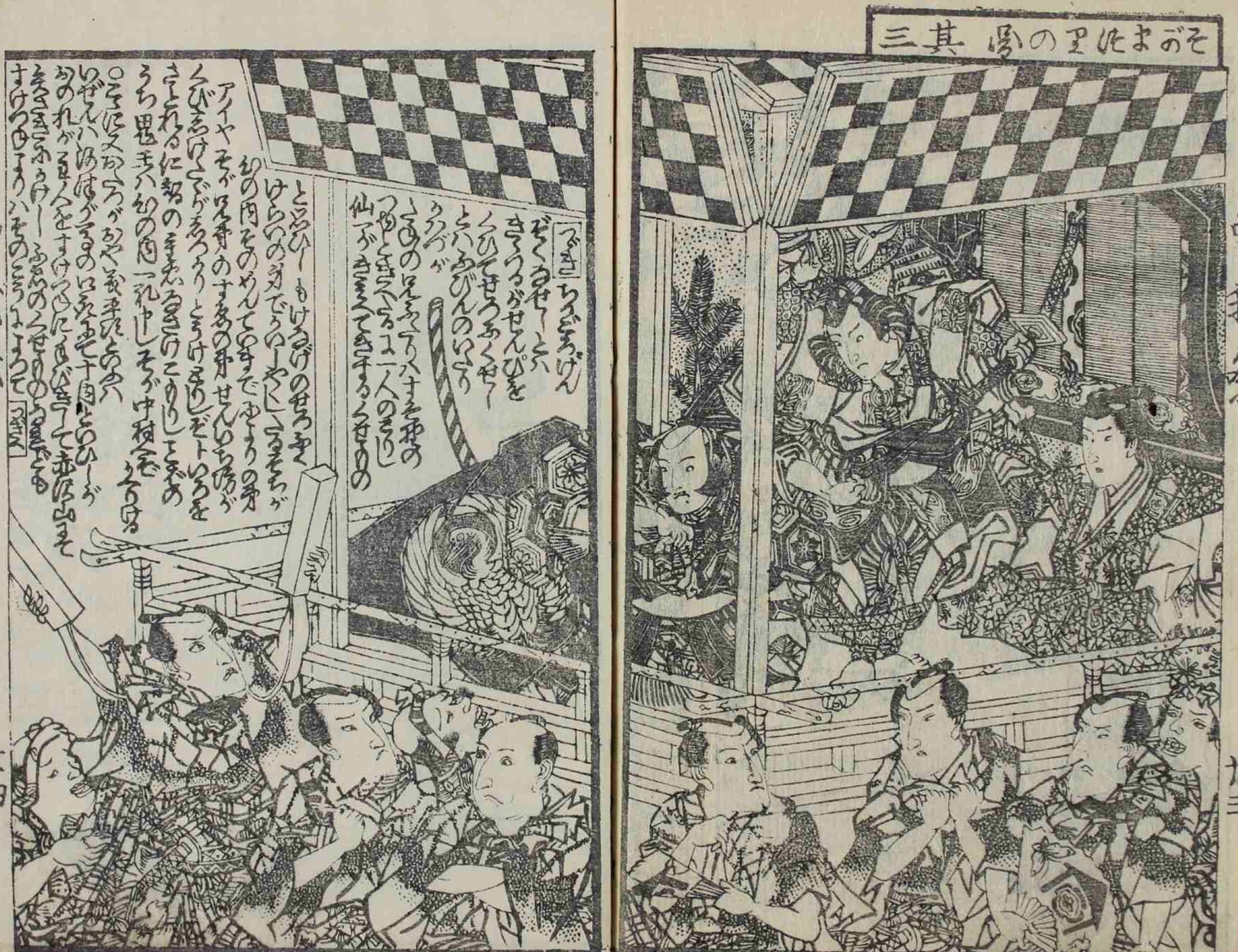
「つぎに」さんぞくどもを「すくそれ
がうでんとおんなかわいそ□ごねざき
まつりのしゆぞんのねひの袖
うきにおさかなやめまちにもろ
こがひのそでを引きりてさるうかくて
すだふひつろけぞちうろもそでにせねくさあ
ミテさく五郎の身のうへもさんとおくそ
「イヤさうが身ハそのあさかやあすをも
生さぬ身ろげのつゆ「そうきこそハあわれさう
おのようう「つま」でさいませうやそりの一ゆう
「サヤごぎんせト女房ふくそりメてみ人の
「そびきこくづま」おつほくこそそうけるか
○それハさてあき鬼王が方国をハせんおち
坊にゆすりのさ二ごろうとげく甘くまつそら道
みんそうがきこの札のまへそろうとざすてうきゆきを
のこしおき仙一とあのりそらきらんとお身すれぐら
わかよく来るる兄鬼王うもりてすぐめすをきくに
此身がりのようをつぐるに鬼王らんどておつれ次第
今さうさぶんかれ身ーそれにつきや きうすろいちき
ありせんべどの人が母の一ゆうをつてさうけのべうの如くどう身を
くむくわるこのお身あの身一さの心ひそらく巳の年月
日時そうひーうまれるまでなんちがせのけつを

一ゆぜん守さま流をもくちさき
そちつがくびハおが身がうり
兄弟がこ演きうか
はわをのきをも
こうろた身也
こーゆうてぞ
サアわ役人
いそのを
うゆーやく
一ろねあと
ごぶつトそらく
つきこそひきこ
まらせバ鬼王ハ
うろぶの さくに
身ハくびハくさこのつゆ
あわれな哉ぞ このりきさ
くて鬼王身がくびをけさたつるとあけさぞの
ゆくーよく「おさん」るそくぶんをげさんさーぶわれを
おとろ见ーもとへのせがれ仙一坊はせんおさきびーさにわそ
のがれがここ天のあこそれが一きわく おけんせーにごろやまた
ふくーてそそきろてあのそろうるにより くびきろてちさんつくまつる
あひろうよろしくトあゆのぶるあげくてみつにひきこあせつく
よごらんぶて「いのちをもそうねあきこせんい ちがぶくび
（ゆく）





○曽我まつりの図 其二


そがまつり其三
つゞき ちゞぶげん
ぞくらうせしとハ
きやうがせんぴを
くひてせうぶくせし
とハふびんのいたり
なりしが
みなの見えて八十三年の
つゆときえたる五十一人のきりし
仙人がきたえてきたるくすりの
とあひしもけうげのせうそく
けらいの身でらいしやくしたるそちが
ゑの肉そのやうでゆすでゆうまりの身
アイヤそれが仁義のすゝめの身せんいち殿が
くびをうけとぶがふかりとうけとりしぞトいろを
さしとれる仁義の手をふらさけこかりしてかの
うち思ひハゑの肉一礼やしそが中村仝 えうけり
○それハ又かへろがかや義平次とのハ
いぜんハ浅倉のいえをも十内とのひしう
かのれがこれをすけてハ直ぐ出て赤沢山まで
ゑいふかいのくぜすのふるとも
すけつかまつりハそのとうりよろしく
つぎへ

一段まへのつゞき むすめのおちう
びをのがりて [illegible]
[illegible]
天のせめ [illegible]
[illegible]
[illegible]
そのうせ [illegible]
[illegible]
金七が [illegible]
がうねせうこに
そまんそく
うるうちに△

△ゆきゞ [illegible] それ
より [illegible] のかゝろと
[illegible] それ
つよき女ありて ますく
そゆるときくにつけ
金七八 [illegible]
義平次に [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible] 金七に [illegible]
[illegible]
[illegible] ⊠

⊠ あゝ [illegible] まず [illegible] ありけれバ金七 [illegible]

つぎへ

つゞき ねさうちにきゝつけ
るふふそきの表手に
人ごろしトよびきたる
すんど切すてくそ〳〵を
さしていきのねとめんと
まつるをりからにむかふ
よりくるはやうちんに
みんとみられど ときより
ずてはしてそのうきをいそぎ
ふちさりけり此ときに
ふし七ろくてそ
山ぐんた九よおよ
実のみきのん
つきそてるにが
せうくるのこ
ーを引しるひ
久しぶのちのせう
ところたそう表手びが
ふかとよのころしてもそのとぞうそぞおそろしき
さてはさのれハおつきそてかの川へちよくのごてき
いそがしくまでかけてくるゆきの下ぞんぐるのみとり侍て

ゆかりやちらんもの
かとするはそちやう
ちんてにてよく
見るに太二三足あつま
アそやきのんうちぢちの
つゝきるせう
ときくんて▲

▲ある
そひたさるに
おやくおのひ
いぬをおそてらの
せうとをひろひさう
その男にくちをさとめ
ゐばけ見してにげやく
うへりけり

○それはそ扨ハむすめちうらざうぐやのむすめ
お仲ハいそやいその娘うしろをもちて弁当
きさんのねがひにきて一より今もあつて考の
さてもかくむかひの人をもかたきねを
くよくとおんじ己うひむすめ扨の
りーや又かにますえわりてうと
むねをいてむるこひ娘の
おりひ云て〇ある夜
ひそかにおのびのぞて
いさきでもおうね
おまおにおのぞける
こそ〳〵そけれ
孫兵衛ハむすめのびやう
きわるいにてもひも
ねやへんろびきそて
むすめのをきくねに
むねをいてあ
おくりを一んれば
あんさんふもきこのて
いその過ちへんびゆくとの
さあれどさききハされてもこちらのおんじ▲

▲そのひの
さんぎおや
くさるびよきとへにげけり▲

▲ものぞうぐやの代 侍八ハおひらぐ
されてつずくね男とくるしもむすめの
お仲もゆくぞぞおそろしきをそびきぞて
日ごろのおもひはらつぷんを
えらきんとあけくれ
きんーじよく⊗

⊗くらミ
ねてまりも
あるがとうぞひ
おさるえろちずも
お仲がきのびてで
ひとりおちゆく
かうすをみる
より侍八
ぞく〳〵
よろこび
其のあとから

うけべてろこうぞぞひ人
まちうちしとうむきもらず
くちに手ぬぐひおそおびゆて
ぐるくまきらうさんに
こそつぎ
あとはる

○さても
傳八はお仲を
かくしてまづ
柳づゝみの
ひとり手ぞ
ぜんじが
りうおうても
きこゆるまで
あたりに人も
あらざるゆへ
にげりおちて
さうぐにすつ
くびけどうてくん
せうずるそるへ
けらいコウふう
そのうへ庇まぎ
いその縁
さうとゆふ
いひあかづけ
れそろと
ある身
▼

▼さても和れ
まつだいねりつを
ころしてくトいふに傳八
「ふくさんたつてもつま
らねば身のうへさへひとつの
せうぎのあくびをくつて
おまへとあんぢうあんぎやそでも
なりのドやうるり久々につくれてあぞのあるぞで抱こゝや
三井ぶぶもまするあるかんのめそらのふみしきサアくるい
してひとつのきてきてくるるにぞお仲八さんとわられねおもひ
めぐらしてもせんらくあくせがて傳八せうぎのまへるをきかけて
ふびくびくびくりのけのこふハコレうろしやときつてきくる西へ▼

▼お仲を
こざりそやまおぶふ
ありさまをうるぶびし
そろくとうしろまふつ
てお仲をおさへ「コリヤ
おまへハ最まきえ

つぎへ

つゞき三
八がくびちぢさんと
サアごんせト
お伴をつれて
のりでごく

仙壹丸
仙
仙
仙
仙
仙

文政七甲申新板稗史目

曽我祭東鑑 六冊 寉屋南北撰 亀東作 五渡亭國貞画

玉櫛笥両個姿見 六冊 北川雪宕作 哥川國直画

復讐白坂嘶 五冊 戀川春町作 哥川國安画

屠蘇喜言 中本 一冊 櫻川慈悲成作 哥川國貞画

女扇忠義の要 全部 十二冊 鶴屋南北大撰寫 哥川國貞画圖

美艶仙女香 一つゝみ四十八銅 … 坂本氏

江戸大門通北江 弁慶橋松枝町
地本錦絵問屋 文壽堂 丸屋文右衛門版

文政七甲申新版絵本目録

地本錦絵問屋 文寿堂 丸屋文右衛門

[illegible]

上編 [illegible]

[illegible] 暑 [illegible] 喜言 一冊 中本 [illegible] 三冊 [illegible] 画作

[illegible] 言 白 [illegible] 五冊 [illegible] 三冊 [illegible] 画作

王 [illegible] 西 [illegible] 賀 六冊 [illegible] 三冊 [illegible] 画作

曽我 [illegible] 東鑑 六冊 五冊 [illegible]

書
度